

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	循環病態科学領域 循環病態内科学教育研究分野 氏名 小路祥紘
指導教授氏名	富田泰史
論文審査担当者	主 査 山村 仁 副 査 福田幾夫 副 査 廣田和美
<p>(論文題目) Use of wearable cardioverter defibrillator shortens the ICU stay and enables safe management in a general ward</p> <p>(着用型自動除細動器による ICU 滞在日数の短縮と一般病棟における安全性の確保)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>血行動態が破綻する心室頻拍 (VT) や心室細動 (VF) を発症した患者の多くは、心臓突然死の二次予防目的に植え込み型除細動器 (ICD) の植込みが必要となる。しかし、人工呼吸器関連肺炎・複雑性尿路感染症・カテーテル関連感染症などの院内感染を併発すると ICD 植込みが一時的に困難となる。これらの患者に対する着用型自動除細動器 (Wearable Cardioverter-Defibrillator: WCD) の早期使用が、ICU 滞在期間を短縮し、一般病棟での安全な管理に導く可能性がある。研究方法は、2014 年 6 月から 2016 年 5 月までの期間 (24 ヶ月間) に、VT/VF 二次予防目的に 50 人の患者に対して WCD を使用した。その後、ICD が植込まれた 29 名を WCD 群とした。2012 年 6 月から 2014 年 5 月までの間 (24 ヶ月間) に、WCD を使用しない従来の管理方法の後に、心臓突然死の二次予防目的に ICD を植込まれた 44 人の患者を control 群とした。当院での WCD 初回使用となった両群間における ICU 滞在日数、一般病棟における ICD 植込みまでの日数、そしてその間の安全性に関して検討した。その結果、WCD 群における WCD の 1 日平均使用時間は 23.1 時間であり、WCD 使用のコンプライアンスは良好であった。両群間での患者背景因子の比較では、WCD 群の患者年齢の中央値 (25-75 パーセンタイル: IQR) は対照群の患者よりも有意に若年であった [WCD 群 52 (46-59) 歳、control 群 63 (48-66) 歳、$p < 0.05$] が、その他の患者背景因子は両群間で差はなかった。ICU 滞在日数の中央値 (IQR) は WCD 群で有意に短縮していた [WCD 群 0 (0-1.5) 日間、control 群 3 (1-7) 日間、$p < 0.05$]。一般病棟における ICD 植込みまでの期間は、WCD 群で有意に延長していた [WCD 群 10 (5-19) 日間、control 群 0 (0-3) 日間、$p < 0.05$]。以上の結果より、VT/VF の二次的予防として ICD 植込みの適応となる患者では、WCD の早期使用は ICU 滞在の期間を短縮し、一般病棟で安全な管理を可能とすることが明らかになった。よって、本研究は非常に臨床的意義の高い内容であり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	弘前医学 2018 年 3 月に掲載予定